

山とまちをつなぐ
「ハブ拠点」としての
安威川ダムを目指して。

令和元年12月

茨木市

茨木市の市街地と北部地域をつなぐ

「ハブ拠点」としての安威川ダム。



茨木市北部地域の活性化および課題解決に向けて、安威川ダムを南部の市街地と北部の山間地をつなぐ「ハブ拠点」として位置づけています。北部地域で活動を行っている地域団体をはじめ、各種施設や事業者とのより良い連携を図ることにより、ダム周辺の賑わい創出に加え、北部地域全体をステージとするダイナミックな魅力提供が期待できます。市街地からダムへ、ダムから豊かな大自然や里山の営みへとアクセス。そして、各種施設やスポット間がつながることで、グルメやレジャー、スポーツ、自然体験、文化・教育活動など、相乗効果による新たな事業展開が可能となります。

茨木市北部地域は、地元の人たちから親しみを込めて「山三」と呼ばれています。

1889年(明治22年)に施行された町村制により、島下郡のおおいわ やすもと しょうぼ だいもんじ くわのほら いしかわ の大岩村・安元村・生保村・大門寺村・桑原村を「石河村」。しもおどわ かみおとわ ぜにほら ながたに きよさか きよさか 下音羽村・上音羽村・銭原村・長谷村・清坂(現在は清阪)村・車作村・忍頂寺村を「見山村」。泉原村・千提寺村・高山村・佐保村を「清溪村」として発足し、旧村域は大字となった。1896年(明治29年)には所属郡が三島郡となり、その後、1955年(昭和30年)に茨木市へ編入。同時に三島郡石河村・見山村・清溪村は廃止されました(その際に清溪村の大字高山が豊能郡東能勢村=現豊能町に編入)。地元の方たちは、現在もこの旧石河村・旧見山村・旧清溪村の3つの旧村域で区分をし、親しみを込めて「山三」と総称しています。



[北部地域の15集落]

安威川ダムから半径約5km圏内で 美しく広がる大自然、里山での営みに出会えます。

北部地域で活動を行っている地域団体をはじめ、
各種施設や事業者とのより良い連携を図ることで
スケールメリットを活かした
新たな魅力創出につながります。

1000 m



竜王山の北麓。美しい田園風景に包まれた「長谷」の地で茨木産のお米や野菜、特産加工食品や手料理を提供する「de 愛・ほっこり見山の郷」。採れたての新鮮な食材を求めて多くの人々が訪れ、北部地域の集客スポットとして広く周知されている。地元の農家たちで支え合う農事組合法人によって運営される見山の郷では、茨木における農業の普及をはじめ、地元地域の活性化、市街地の人たちとの交流拠点としての役割を担っている。

9時～17時(冬季16時)

年間 11万人、年間販売額 1億2千万円(H29)

【施設目的】 山間部の農業振興及び地域の活性化 と人づくりを目的とした、都市と農村の交流活動を推進。都市近郊立地の優位性を活かし、地産地消の店として農作物・農産加工品を提供することにより、地域農業の発展と担い手の育成を推進している。

【商品】

- ・ エコレんげ米、エコ米、龍王味噌、de愛豆腐、米粉パン、ほっこり納豆、赤紫蘇、赤紫蘇加工品(赤紫蘇サイダー等)、ぶどう、大甘青とう、あまっこ



チキチキファーム

下音羽

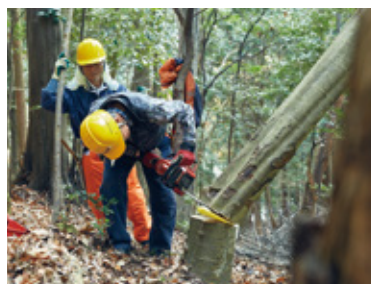
「チキチキファーム」を運営する伊東充志いとう あつし氏は、農事組合法人見山の郷交流施設組合に所属し、農業を営みながらも前職の経験を活かしてグラフィックデザインも手掛けている。見山の郷の特産品や加工品のパッケージデザインも伊東氏によるもの。さらに、都会で暮らす若者に農業をはじめめるためのアドバイスやサポートを行うなど、新しい農家の在り方を模索し、積極的にチャレンジをしている。

- ・ 多品種野菜 栽培面積：ハウス3棟、露地 30a、稲作 40a
- ・ 農業を営みながら、加工品などのパッケージのデザインも手掛ける。



指定管理者「里山サポートネット・茨木」が運営し、北部地域における森林ボランティア団体の拠点として活用されている。所属団体ごとに、目標やエリアを定め、年間を通じて200名以上のボランティア参加者が人工林の間伐作業、拡大竹林の伐採、雑木林の整備、台風災害時等の倒木処理など、北部地域における多様な里山保全活動を行っている。廃校となった春日丘高校泉原分校を再利用した施設では、子どもたちの木工教室、炭焼き体験、各種イベントを開催。さらに、バーベキューやオートキャンプ場として開放するなど、市民が里山と触れ合う機会創出の場となっている。

- 平成19年、茨木市内の里山里地保全ボランティア団体や環境教育ボランティア団体、地元自治会、大阪府森林組合、茨木市林業推進協議会等が参画して設立。



茨木里山を守る会

地元地域からも10名以上が入会し、地元と密着した活動を行っている。活動地は「茨木市里山センター」を拠点に、隠れキリシタンの里・千提寺地区を始め、銭原地区、竜王山等、約30haの森林整備活動を実施。

茨木ふるさと森づくり隊

里山の荒廃、重大さに気付いた市民が本会を結成。大阪府立大学工業高等専門学校の学生とともに「間伐材活用による森林保全プロジェクト」を実践している。

くるまづくりさとやま くらぶ 車作里山倶楽部

地元住民・市民ボランティアと車作地区内で、高齢化や過疎化により荒れたままになっている雑木林や、手入れの行き届かない人工林の整備等を行っている。また、棚田6枚を使った柿や栗等の果樹栽培や、キツネノカミソリの群生地保護もを行っている。

茨木バラとカシの会

認定 NPO 法人シニア自然大学校を修了した仲間で構成。自然とのふれあいをテーマにした社会貢献活動を行っている。「保・幼・小出前授業」、「自然工作教室」、「自然に親しむ探検講座」などを開催。

はちぶせやま 鉢伏山森づくりの会

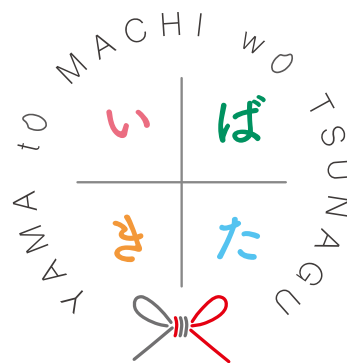
いわさか さいとし
岩阪と彩都西地区の住民が中心となって、森林や登山道の整備、笹刈りや間伐、倒木処理、山道の補修などの山仕事を行っている。

ほくしんがま すみやき くらぶ 北辰窯炭焼き倶楽部

炭焼き技術の継承を目的とし、里山センターを拠点に「炭焼き体験講座」を定期的で開催している。講座受講生有志が本会を結成。

いばきたマルシェ

茨木市では「山とまちをつなぐ」というコンセプトのもと、いばきた(茨木市北部地域)のPRや農業振興を目的とした取り組み「いばきたマルシェ」を実施。いばきたの農家が丹精込めて育てた野菜、米、加工品等を市街地であるJR茨木駅前 茨木ショッピングタウンにて出店スペースを提供し、直売のサポートを行っている。



●いばきたマルシェ出店者

Farm かわの河野屋

できるだけ珍しい品種の野菜を選び、種まきを通常の時期からずらすなど、本来は出回らない時期にも出荷できるように工夫を凝らしている。スーパーなどではあまり見かけない珍しい野菜に出会える。

アグリファーム さほ佐保

彩都のすぐ北側にある佐保地区は、市街地に近い地域。「いばきたマルシェ」では、季節を感じられる旬の新鮮な野菜をセレクト。佐保地区からは「アグリファーム佐保」が直接販売している。

泉原 いずはらファーマーズ

泉原地区は、美しい山々に囲まれ、谷間に清らかな水が豊富に流れていることが地名の由来。豊かな水と寒暖差によって美味しい米や野菜収穫できる。泉原地区からは、「泉原ファーマーズ」が販売している。

クリシタン遺物史料館

千提寺

クリシタン大名として有名な高槻城主・高山右近の領地であった千提寺の周辺には、多くのキリスト教信者が暮らしており、キリスト教禁制後も「隠れクリシタン」として信仰を守ってきた。教科書で知られるフランシスコ・ザビエルが描かれた絵画は千提寺で発見された。クリシタン遺物史料館では「マリア十五玄義図」「クリシタン磔刑像」をはじめ、当時の信仰の様子を伝える遺物史料を展示している。

開館時間：9:30~17:00

定休日：火曜日(祝日の場合は翌開館日)

年末年始(12月29日~1月3日)



茨木ほくちの会

地域住民、事業者、出身者がコアメンバーとなり、北部地域の新たな価値創出を目指して活動を展開。北部地域 15 集落で暮らす人々のネットワークづくりをはじめ、少子高齢化、若者層の流出、農家の担い手不足といった課題解決に向けて、新しいライフスタイルの提案、新規産業や事業開発など、さまざまな取り組みを推進している。

2015 年 4 月設立

- ・ 会員条件：市北部地域の（見山・清溪・石河）居住者・出身者・事業者で参加の意志のある者
- ・ 会員数：60 名（2017 年 4 月現在）
- ・ 茨木ほくちの会事務局：千提寺 300-1
- ・ チーム別活動：高齢者チーム（買い物支援）、未来チーム、若手チーム、活動人口チーム



千提寺 farm.

千提寺

江戸時代から茨木で栽培されてきた「三島独活^{みしま うど}」を継承する農家は、千提寺 farm.1 軒のみ。手間暇をかけて育てる伝統農法を守り継ぎ、香りが強くみずみずしい「本物の味」を追求している。高級料亭やホテルの調理人からも称賛を受け、ネットによる販売も収穫後には即完売する希少な特産品となっている。

- ・ 日本唯一の三島独活農家伝統農法で作られる幻の高級食材「三島独活」を継承。独活は公式サイトで購入可。



清阪 terrace

清阪

清阪の地で「循環型農業」を営む「清阪 terrace」。人工肥料を持ち込まない野菜栽培、企業の廃棄資材を飼料にした平飼い養鶏などを行っている。また、都会で暮らす人たちとの農地のシェアをはじめ、ワークショップやイベントを行うなど、常に新しい農業のスタイルを模索、実践している。

- ・ 平飼い自然卵清阪で循環型農園を営む。箕面ビールの粕、パプアニューギニア海産の海老殻、山口納豆、和田萬の胡麻など茨木や他県の企業の廃棄資材のみを飼料にして養鶏。

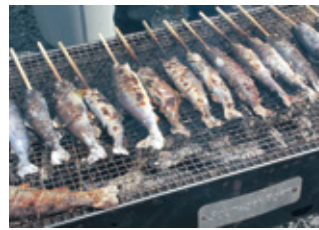


安威川上流漁業協同組合

車作

茨木市車作の下音羽川にて、アマゴやニジマスなどの本格的な溪流釣りが楽しめる(要予約)。他にも、子ども向けに魚の掴みどりを実施したり、BBQができるスペースもあるので、親子連れでも楽しむことができる。自然の中に溶け込んで、自然と対話しながら魚釣りや川遊びができるスポット。

- 下音羽川(車作)における溪流釣り アユ解禁(7/1~8/7 期間中毎日) 年間通し券 8,000 円、一日券 3,000 円 ニジマス・アマゴ(11/3~5/5) 解禁日は期間中の土・日・祝日のみ
- 所在地:茨木市大字車作



忍頂寺スポーツ公園 竜王山荘

忍頂寺

本格的な野球場・サッカー・ラグビーに利用できる多目的グラウンド、市内公営テニスコートとして最大規模の全天候型テニスコート6面をはじめ、ゲートボール場、ドッグラン、わんぱく広場などの施設を備えるスポーツ公園。併設する竜王山荘は、北部地域唯一の宿泊施設であり、レストラン、喫茶室、大浴場、各種研修などに利用できる多目的室などを完備。東海自然歩道を訪れるハイカーやサイクリストたちの交流の場としての役割を担っている。

営業時間: 7時~19時(季節により変動あり)

休館日: 12月29日~1月4日

総面積: 67,527m 多目的グラウンド、テニスコート、ゲートボール場を完備



大岩いも掘り園

大岩

開設から45年以上、茨木を代表する人気スポットとして広く周知される「大岩いも掘り園」。800平方メートルの広大な畑には約2万本の「紅あずま」が株植えされる。9月15日から11月3日の土、日、祝のみの開園で約13,000人を集客。親子連れをはじめ、団体の利用客が多く、リピート率も高い。

- いも掘り体験 9月15日~11月3日の土・日・祝 9時~16時、駐車場: 約30台以上 ※30人以上の団体の場合、1週間前までに予約すれば平日午前中もいも掘り可 ※一般の方で営業日のいも掘りは、予約不要 いも掘り一株 300円



Fourmi

上音羽

自然豊かな茨木の山奥にあるカフェ。都会の日常に疲れた時、自然豊かな田舎でゆっくり癒して欲しいと思いこのお店を始めた。おいしいランチにスイーツが自慢。開店日時等、お店の情報はフェイスブックで更新。

- カフェとスイーツ
不定期:10時~16時



いちむそう

十八庵

とはちあん

泉原

「泉原西」バス停のすぐ前にある十八庵では、本格的な手打ちそばが楽しめる。十割そばと揚げだしそば豆腐がセットになったそば御膳は、4月のさくら切り、5月の紅花切りのように月替わりで登場する変わりそばが楽しめる。お店の前に桜の木があり、春には窓から桜を眺めることができる。

- 手打ちそば
定休日:水
営業時間:11時~17時(売切次第終了)



ざくろ

泉原

さわやかなレモン色の外観が印象的な泉原の隠れ家カフェ。花と緑に囲まれて、みんながゆっくりくつろげる憩いの場。気さくな店主とおしゃべりが楽しめるカウンター席、風が心地よいテラス席、どちらもおすすめ。

- カフェ
土日:11時~17時



一夢想

いちむそう

上音羽

地元の旬の食材を使った田舎風季節料理が味わえる「一夢想」。築200年の家屋は、店主の先祖が江戸時代から守り継いできた邸宅。四季折々の草木や花と庭石が見事に調和した風景を眺めながら、ゆったりとした贅沢な時間を過ごすことができる。

- 古民家カフェ 定休日:火、月初め、盆、年末年始、随時 11時半~15時、1日3組限定、要予約 6代続いた古民家を活かそうと開店。自家製の米、旬の野菜を使った田舎料理が味わえる。手作りのすくい豆腐とごま豆腐が評判。



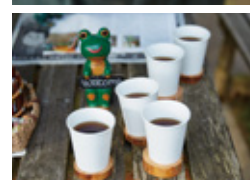
雨蛙菜園

あまがえるさいえん

銭原

農薬や人工肥料を使わず、自然本来の力を発揮させる「自然農」を営む。平飼いによる「自然卵養鶏」でも、市販の配合飼料を与えずに育てられた鶏の卵を販売。卵アレルギーの人たちのリピーターが山奥まで買いに来るほど。また、卵を買ってくれた人に自家焙煎コーヒーを無料提供している。

- 多品種野菜 栽培面積:ハウス3棟、露地 30a、稲作 40a
- 「赤紫蘇サイダー」のしそを生産しつつ、ラベルのデザインも手がける。



縄文カフェ まだま村

千提寺

千提寺の竹林の中にひっそりと佇む現代風竪穴式住居カフェ「まだま村」。柱に200年前の民家の古材、円すい形の屋根に琵琶湖の葦が使われており、店内は、ゆったりとした時間が流れる。玄米と地元野菜でつくる「縄文ランチ」をはじめ、スイーツメニューも豊富。

- セミナーハウス、カフェ（竪穴式住居をモチーフ）
定休日：月・火 11時～16時（土日は17時まで）伝統的な料理法を研究し、縄文ランチを開発。縄文ランチは要予約。



The Forest Of Arts M's Cafe

千提寺

建築家のオーナーが千提寺の実家をリノベーションした「M's Cafe」。広々とした店内では、多彩なランチやメニューやスイーツはもちろん、ライブやアートギャラリー、ワークショップ、ダンス教室など、カルチャー発信を積極的に行っている。

- ギャラリーカフェ
土日祝：11時～17時、平日は予約時のみ営業 店内ではライブ、映画上映、ダンス、クラフト教室等を開催。



ゆめさきぢゃや 夢咲茶屋

銭原

銭原の美しい棚田の風景に囲まれた小高い丘の上にある古民家カフェ「夢咲茶屋」。レトロな雰囲気のオブジェが並ぶ店内は、田舎に帰ったような、ゆっくりとくつろげる空間。野菜たっぷりのランチ、シフォンケーキなどを提供している。

- 古民家カフェ、自家栽培の野菜を使った料理
不定休、10時～16時 バーベキュー：1日1組
要予約

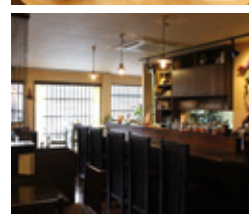
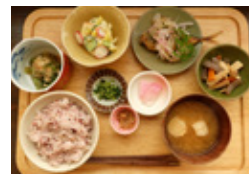


cafe らん

忍頂寺

若い世代が少なくなって寂しくなる地元に「人が集まる場所をつくりたい」とはじめた古民家カフェ。地元で採れる旬の野菜を使った「おかんの里山ランチ」、隣接する「たたらば珈琲焙煎場」でつくった「らんブレンドコーヒー」などを提供している。

- 地野菜料理の店 第3日曜日のみ営業



安威川ダムファンづくり会

「安威川ダムファンづくり会」は、ダムやその周辺地域の活用・保全などについて、大阪府、茨木市、地域の方々、企業、教育機関、NPO 団体、専門識者、クリエイターなど、さまざまな分野の人々が意見やアイデアを出し合い、議論を重ねていきながら、一緒になって取組みを推進していくためのプラットフォーム。そのプロセスをオープンにしていくことで、共感へとつながり、集まってこられる方々が「ファン」となって、地域づくりに参加していただくことを目指している。

地域の人たちと一緒に実践していく。

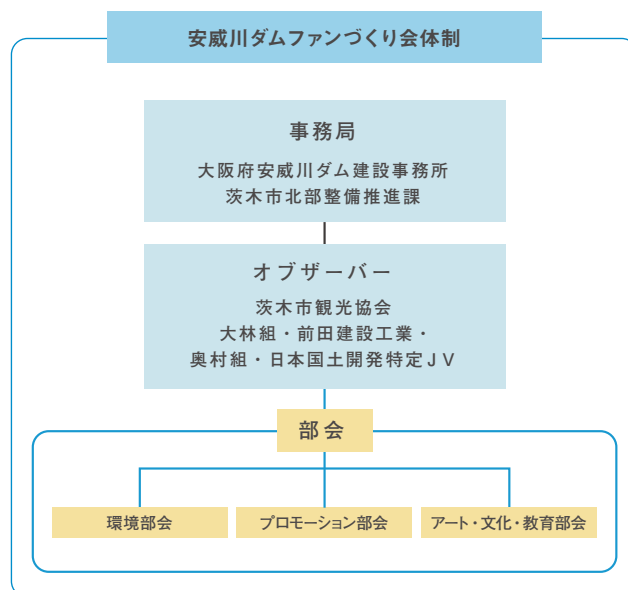
安威川ダムは、安威川下流に位置する市街地を、大雨・洪水などの水害から守るためにつくられるが、その役割とともに、気軽楽しめる自然環境を提供したり、地域の活動ステージにするなど、さまざまな可能性が広がっている。安威川ダムファンづくり会では、多くの人たちにダムと周辺環境を活用していただくために、地域の人たちと一緒に考え、取組みを推進させていく。

多くの人々が参加できる仕組みをつくる。

安威川ダムファンづくり会は、ダムと周辺地域を愛するファンを増やしていくことを目指している。そのためには、眺めて美しい、訪れて楽しい、近くに住みたい、住み続けたいと思える環境を生み出していくことが大切。より多くの人たちが関心を持ち、交流を深め、参加できる仕組みを構築し、みんなの想いを実現できる環境づくりに取り組んでいる。

周辺地域の自然環境を守り継ぐ。

ダム建設によって自然環境に影響することがある。それを回復させ、守り継いでいくことは重要なミッション。ダムと周辺環境の活用と保全、この二軸を同時に進行させ、バランスの良い地域資源の在り方を追求していく。安威川ダムファンづくり会では、多様な分野の識者、専門家、クリエイターなどを交えて、総合的なランドデザインに着手している。



安威川ダムファンづくり会では、多様な協働プロジェクトの推進をはじめ、地域間のネットワーク構築、プラットフォームの仕組みづくりなど、さまざまな取組みを行っている。話題性、参加性、継続性を軸とし、多くの人たちが共感できる活動を展開することで、「ダム」と「地域」と「人」をつなげていく。

いばらきサイクリングプロジェクト

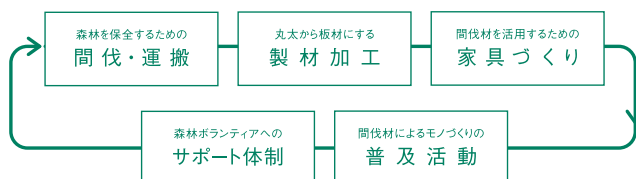
茨木市は、市街地と山間地が近く、標高 510m の竜王山の頂きまで、なだらかな傾斜が続く。その地形ゆえに育まれてきた「里山」だが、サイクリストにとっても絶好のロケーションである。いばらきサイクリングプロジェクトは、「市街地から安威川ダムを中継拠点として、北部地域のさまざまな魅力を自転車で楽しむことはできないだろうか」という発想からスタート。ダム周辺地域の活用をはじめ、地域の活性化、地元の方々との交流など、茨木にしかないサイクリング文化を生み出すために、さまざまなチャレンジを行っている。



間伐材活用による森林保全プロジェクト

茨木市北部の里山周辺地域に広がる美しく豊かな森は、近年、林業を営む人々の減少によって、間伐をはじめとする「森の手入れ」が行き届いていない状況である。安威川ダムファンづくり会では、2015年に「間伐材活用による森林保全プロジェクト」を発足。日々、茨木の山と森を守るための活動を続けている森林ボランティアの方々の協力のもと、学生、クリエイター、家具づくりの専門家が、一緒になって、課題解決を目指している。

間伐材活用による森林保全プロジェクト



「環境」への取り組み

茨木市北部から市街地まで、なだらかに連なる屏風状の山と山間部から市外部を背骨のように流れる安威川。このような地形の特徴によって、多様な生き物たちがバランスを保ちながら生息している。安威川ダムファンづくり会では、ダム建設で失われる自然を全力で回復させていくとともに、広大で豊かな自然環境や生態系を維持、保全するための活動を行っている。多分野の識者、専門家をはじめ、さまざまな人々の参加し、一丸となって課題に取り組んでいる。



「食育」への取り組み

茨木市は、市街地のすぐ近くに山や農地があり、「食育」を推進していくための環境に恵まれている。週末に里山で畑仕事をしたり、農家の方々とコミュニケーションをするなど、「食」の現場と出会い、触れ合う機会を増やしていくことによって、自分たちの地域や社会についての関心や理解が深まっていく。安威川ダムファンづくり会では、茨木の食文化を、もっと豊かにしていくための、さまざまな活動を実践している。

安威川フェスティバル

2014年「次世代につなぐ出会いの場」をテーマにスタートした安威川フェスティバル。回を重ねるごとに来場者も増え、地域の恒例行事として定着してきました。「自然に学ぶ」「文化に学ぶ」「ダムに学ぶ」「つなぐプロジェクト」を軸とした、多彩な参加・体験型のプログラムは、安威川ダムファンづくり会で意見やアイデアを出し合い、地元地域、学生、企業、団体、飲食店などとの協働によって運営している。

